

弓削通信

発行責任者
愛媛県越智郡弓削町
土生318-2 平山和昭
電話：0897-77-3072

焼け石に水

やぶさするんじやないか

人はみな その道のプロ 自信をもって人生を語ろう

都筑卓司 著 10歳からの
相対性理論(講談社ブルーバ
ックス)の前書きに「われわ
れの(空間と時間に対する考
え方)を根底から覆したアイ
ンシュタインは、長い科学史
の中でも類を見ない天才であ
る。この大天才でも不得意課
目はあってフランス語ラテン
語は落第点、暗記ものは下手
そして大学入試には失敗して
いる。彼は嫌いな学科にはま
ったく関心をもちたないとい
う現在日本の学校教育制度から
みれば一種の異端児(場合に
よっては落ちこぼれのラク印
をおされかねない)だった」
・・・とあります。

長い冬も終わりました。
のっけから相対論とは大架
梁にすぎましたが、私達だっ
て例えば肉体が辛いときは長
く、心弾む時は短い時間を体
験します。空間の長さ広さは
その中にいる人の「立場」に
よって異なる、というのが彼の
主張だそうですから、曲解の
誹りをおそれず「相対性理論
のことはようわかっとう」と
自信をもちましょう。

妙な風潮にも鈍感な、ただの
厄介物になりかねません。
面白くないことに、私の知
っている範囲では、物言わぬ
者といわれても腹を立てず、
シラけてみせる性根の多いこ
と! モノ持ちになり余裕が
あるとどうまで虚仮になれる
ものなのでしょう。

かたは美德であった沈黙
が実は好ましがらざる世をつ
くるのに役立つのであるでは
なからうか? ならば、その
理不尽さに噛みつくのも今を
措いてはないような気がする
のです。差別用語だと
申しては「言葉狩り」
をし「威光」と
やらにしたい
のか国語審議会
の馬鹿学者ども
が気儘に文字を
いじくる。あるい
は昨今の「国政県政
市町村政」。

まことに不純な動機で、や
や恐縮なのですが・・・どう
かまた参加してください。
再刊に当たってはささやかな
実績を後生大事にして体裁の
大変更は見送りしました。しか
し相変わらず、あえて他人の

ふんどしでの相撲は辞さない
つもりです。まず「意のある
ところ」こそをくみ取って
いただきたいと考えるからで
す。では早速ですが、他人のふ
んどしで。
多くの困難と闘いながら孤
児救済に献身している社会法
人、北海道家庭学校の校長、
谷 昌恒氏の労多く報われる
ことの少ないこの事業に一種
の歯がゆさを感じたある教授
が「焼け石に水」だと毒舌を
吐きました。そのときのこと



本年1月15日上弓削地区高浜。やがてこの浜での
トンド祭もテトラポットに守られアオサの緑映える
新年の行事となる。リゾート万歳!ヘドロ万々歳!

因島おやこ劇場
4月1日(金) 6:30~
因島市民館中ホール

三人であそぼ
低学年のための例会
(高学年の人も乗り入れできます)

狂言を遊ぶ

ごっこあそびを楽しんだ後には
心地よい疲労感が残っていた。

因島おやこ劇場事務局
TEL (08452) 2-4166
弓削は前田さん77-2569

観ませんか。
佐島の川本三治さん
は懐かしの映画などの
ビデオ(ナツ・ビデ)
のコレクターです。
すでにビデオでしか
観られない映画もいっ
ぱいあります。お友達
と一緒に観賞する「ナ
ツ・ビデオ会」(仮称)
を呼びかけています。
皆で集って、観たり
語ったりする会を近々
発会の予定です。
只今同志募集中。
●連絡先 弓削通信
または川本三治さん
(77-409)まで。

私が出会った映画 ①

中岡 徹 (向島)

僕が今よりも、もっと物
静かで道の端ばかり歩いて
いた頃は、テレビも普及は
してはいたけれど「映像」と
いえるものは映画だけだっ
た。

いまは因島に映画館はひ
とつもないけれど20年ほど
前のその頃、大正座と東映
そして日立会館が残ってい
た。(残っていたと言うのは
はつまり、その
前にはもっと沢
山在った訳で、
僕の生れた生口
島の東側だけで
も3館は確か存
在し、小学校で
はみんなして
「白蛇伝」なん
かを観に行っ
たし、同時上映
のニューズ映画も情報として
の機能を充分果たしていた
と思う)

さて紅顔の少年だった頃
の話。こういうのが「映画」
なんだとはじめて納得した
のがフランス映画「シペー
ルの日曜日」。シペールと
いう孤独な少女と、心に深
い傷を持つ青年の出会いが
ら別れまでを描いた叙情性
溢れた佳作だった。このモ
ネっとすたっふ BE-IN-GO

食べ物で言い換えると、
ごつい鉄板のお好み焼きと、
家庭のフライパンでのと以
上に違うと思うのだが、ど
うでしょうか。

現在の因島で
は映画館がない
のだから、かっ
ての僕のような
内気な少年がい
ても、その後何
年も心に持ち続
ける映画に出会
うことは出
来ない。
ビデオがあると考えるの
は大まちがいで、同じ作品
でも得る情報の量は格段に
違う。

弓削通信

発行責任者
愛媛県越智郡弓削町
土生318-2 平山和昭
電話：0897-77-3072

三千世界のカラスをころし ぬしと朝寝がしてみたい

ふと古い歌謡が頭をよぎる
ほど朝の鳥はかまびすしい。
板戸の隙間を通じ日夜自然
の息吹と交歓していた昔はひ
とさわその声も神経に障った
にちがいない。アルミ建材の
普及した今日だが一たび戸外
に出ればドッ飛び込んでくる
喧騒はひところの造船所の始
業時のように大騒ぎだ。

近年過疎化が歎かれるこの
島にカラスだけはどんどん増
えている。理屈に合った現象
なのだ。猟友会の方々に苦勞
をかけても駆除の実効があが
らぬのはなぜか？
人間社会のみならず自然界
には理屈に合わない現象はな
く、かならず起承転結―因果
―がある。このことは見方を
転じればその筋道の何処かが
かわれば結果は変化するとい
うことで、事実人類はそうし
た作業を繰り返して今日の繁栄
を手に入れた。

因果のツボを押えることは
しかし容易ではない。何より
も俗にいう正しい判断が求め
られるわけだし、かなしいこ
とに何をもちて正しいとする
かをふくめ、行く末を見定め
る洞察力を一個人の力量にた
のむにはすでに世の中が
複雑に成りすぎているからで
もある。
はなしかわって・・・
今年の一月配布された第三

次弓削町総合計画(ダイジェ
スト版)を読むに、ほんに夢
がないなあという感がある。

うるおいとゆめのあるみど
りのふるさと(タイトル)を
めざしているのは、実は何処
の市町村とも同じなのだ。
みな同じ問題を抱えているの
だ、とも言えるが、そういう
発想なら「本町の持つ特性を
さらに活用する」(本文)こ
となど夢のまた夢にもならな
いだろう。

策はもっと別のところに求め
られるべきだ。町の全体像を
「全町公園構想」とするより
広報ゆげ平成六年一月号にの
つた看護婦Kさん(久司浦)
の意見『・・・過疎化はどう
止めようもない事実です。こ
れからは「老人福祉の島」と
いうことで島全体を開放され
た明るいホームにして楽しめ
る色々な施設を作り、「特別
養護老人ホームゆげ」で売り
だしてみたらどうでしょう』
こそ、町民こそって賭けてみ
たくなるような夢ではなから
うか？

す げ 元 氣

好英 島田 都 浜



気の殆どは不注意や怠慢油断
から起こり拡大するが必ず前
兆がある。その前兆に自分で
判るものが三つあり、これの
異常に毎日気を配り対応する
ことである。私はそれで今日
まで元気で居る。三つとは、
快食、快便、快眠だ」と。
如何なる武器も技術も知識
も、病気で駄目だ。
普段元気な時は、僅かな事
や自分の事は忘れて夢中にな
り、重症になって慌てて名医
よ妙薬よと大金をかけ、家族
や知人を騒がせ空ろ空ろして
いる人も居る。
それでは遅い。先ず自分が
気が付き、対策を樹てるのが
第一である。

健康は全ての価値の産み の親。だまされず迷わず 自分で守る工夫と努力。

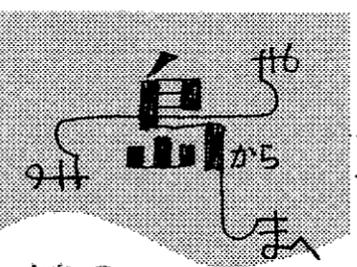
人間、寿命や運命は自分で
動かすことは出来ないにして
も、生きている間は健康であ
り度いもの。健康は自分の努
力で大きく変えられるように
思う。以下私の話で恐縮だが
参考までに。
昭和十五年十二月、京城の
指令部へ転任となり、山下奉
文さんへ挨拶に行った時、若
造の私に訓された言葉の中で
忘れず覚えている事の一つに

健康保持のことがある。
多くの人は知っていても
私には始めてであったので。
いわく「人間は健康の保持
が御奉公の基盤である。健康
は自分で護らねばならぬ。病

昭和十四年一月、北京行き
の列車内で、蔭介石軍の東大
出身の軍医と隣同志に坐り、
健康談議をしたことがある。
同じ東京での学生生活時代
の話から始まったが健康話し
まいか？ (投稿)

あうまあほんつ
飛ぶ空の、何人ま
28号の空飛ぶ、何人ま
通盤の、昨年末から
かか。実は、昨年末から
始まった。下水工事の
ホール。町の道に20個ほど
明神、小中学校前の道に
り花ざかりです。島四国
には、じっくりご観賞あれ。

私が出会った映画
「シンドララーのリスト」
僕自身の日常は、つれあ
いから指摘されるまでもな
く行きあたりばったりで、
映画の情報も予断と偏見の
所産に過ぎない範囲の寄せ
集めです。その程度のアン
テナだから、ちよっとした
映画オタクと話しても、す
ぐにネタ切れになってしま
います。
今年のオスカーを数多く
受賞した「シン
ドララーのリスト」
にしても、前評
判からではなく
て、たまたま都
合よく所用の時
間待ち中に見て
しまっただけの
こと。しかしこ
の幸運は、まさ
に前回に言った
「ごつい鉄板」のたとえを
再確認させて余りある体験
でした。つい五十年前程の
ナチスの仕事を、外国での
特殊な出来事ではなく人類
の歴史的事実として僕につ
きつけてくれました。
ユダヤ人居住区から収容
所へ、ある日突然、強制移
動させられる時、床下や屋
根裏にひそむユダヤ人にも



向島②
因島、生口島
生名島、弓削島
向島と、一人二人と集って
はくれだしましたが、まだ
パワーを産むには至りませ
ん。でも何かをしていない
と一歩も進めないの、映
画以外に関心のある人をも
含めて「ネットスタッフ」
として動いています。
お尻の軽い人、連絡くだ
さい。映画を映画として享
受する仲間として。

孫悟空のモデルとも言われているインドに住む猿「ハヌマン」
ラングラーの世界。京都大学霊長類研究所教授、杉山幸丸氏
著書「子殺しの行動学」をもとに、ハヌマンの社会をリアルに
再現！13日間の平和と争いのドキュメンタル人形・仮面劇。

猿の王
人形と仮面による
無言劇
主演「猿の王」ベルカント・ホール
公演実行委員会
協力 因島手話サークル
因島手話サークル
ねつとすたっふ Be-in-Go

弓削通信

発行責任者
愛媛県越智郡弓削町
土生318-2 平山和昭
電話：0897-77-3072

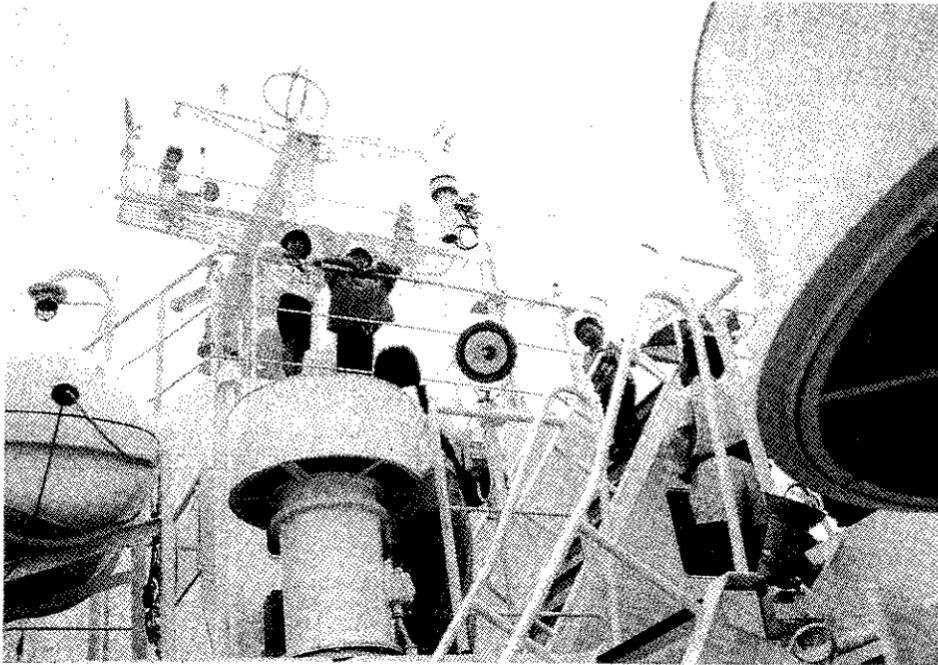
小さな子供が大好きなものに「ちんこ」や「うんこ」の「はなし」がある。これは大人になっても尾を引くとみえ、かつて明治天皇の「うんこ」を家宝にした分限者がいた。自分とは違ったモノの見方をする人を識り己の常識に反転が生じることはしばしばある。いま子育ての常識に首をかきしめる親と子は新しい常識を求めて、駆けめぐる。

時を駆けるおやこ

『因島おやこ劇場』は舞台芸術に接する機会が少ない島の子供達のために五年前、十人ほどの母親達によって旗揚げの一步が踏み出された。

いま約五百人の会員がいて(うち一割は弓削島の会員)児童劇、人形劇、音楽あるいは伝統芸能などの「なまの舞台」を『例会』として楽しんでいる。作品の多くは子ども向けだが大人の観賞に耐え得ないものも一つもない。文字どおり親子で楽しめる。

市役所内にも支部があり、すっかり市民権を得ている。『劇場』の運営は会員の中から運営委員をえらび、上演作品の決定、交渉ごと、機関紙発行、それに自主活動(子供達の文化向上のために良いと思う事は何でもやってみようというもの)など、相当量の仕事を、時には子どもたちを交えてつこなす。親たちも進ん



5月3日 尾道へ向かう弓削商船高専の弓削丸
視界100m弱、濃霧にまかれて雲の中のようなだった。

で役を引き受ける。他所に比し格安の(現在月一人七百五十円)会費での運営は中々にきつい。だがこの地域での存在意義は極めて大きい。

『二度とない子ども時代』に群れて遊ぶ機会のない子は、人間として最も大切なものを手に入れそこねる、と指摘する増山 均さんは(日本福祉大教授)また「高齢化社会」というのは結局他人の子どもの老後の面倒を見てもらう社会であり、子育ては、我が子だけに目を向けているだけでは充分ではない時代になっていきます」と、地域ぐるみでの子育ての意義を語っている。

「因島おやこ劇場」は自主活

親は子の子

動の一つとして子育て談話というのを始めた。子連れで集り、ゲームをしたり食べたり語りあったりする。親たちによる「談話」中は子どもたちだけで遊ばせるようにする。また人の子を世話している気がついたことは報告しあい群遊び、地域ぐるみのありかたを手探りしている。

福山にあるアマチュア劇団「童心劇団マンボウ」一行が大三島公嶺の帰途、子育て談話に加わったことがある。代表の朝野ぶあくさんは次のような体験を語った。

私は四十すぎに保育園に入園しました。その時わが身に二つのハンデを課しました。一つは片手をまったく使わないこと、もう一つは決して口を効かないこと。口を効かない事だけは、な

最も子どもに近い人

親の多くは、我が子に注ぐほどの関心を他人の子には持ちにくい。しかし親の眼差しがわが子に釘づけになっているかぎり子どもは親を育てない。

いつも他人の子の前で活動をしている劇団の青年たちはよほど子ども一般に関心を抱いている。

子どもたちと、共に笑い怒り泣き喜ぼうとしている姿に接すると、同じ意味で最も子どもに近い立場にあるはずの学校教師のことを思わずにはいられない。

子どもと教師、教師と親、親と子どもが敵対する事態が

んどか最後までできませんでした。そこで感じたのは「子どもは懐が深い。子どもの心は柔らかい」ということでした。「どうして何もいわないの?」うなずく。

すると彼らは、いままでの「何かしよう」とか「どこから来たの」から「ブランドに乗る?」「うちは近く?」のようになんか変わってしまいました。

子どもたちはまず全てを受け入れます。受け入れたうえで自分をそれに馴染ませていくこと、つまり育っていくのです。大人はどうでしょう?まず受け入れるかどうかを先に決めようとしています。しかも受け入れたとしても相手のほうに合わせることを期待しがちです。ですから、子育てとは

言ってみれば、実は子どもには随分あわせてもらっているのではないのでしょうか?

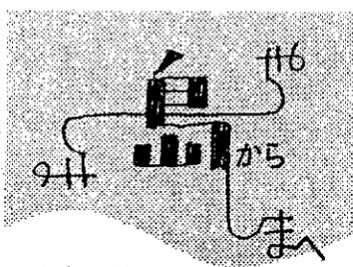
頻繁に生じているのは何故だろうか? 学校は、あるいは家庭は、子どもが主役の舞台ではなく、子どもが客役の舞台ではないのか? 現実と虚構のはざまに身を置いて、子ども達の心に寄り添っていかうとする青年たちと手を携えてきた全国五十万人の「こども劇場」や「おやこ劇場」の人たちは、まさに時代と次代に目を注ぎつづけてきたと言ってよいだろう。

私が出会った映画

「田舎の日曜日」

「シベールの日曜日」から「シンドラーのリスト」まで三十年近くの時間がありました。その間にひとつだけ挙げるとしたら「田舎の日曜日」という、全く有名でない映画を思い出します。

都会から郷里へ帰って就職して、映画なんかは当然縁が切れるものとしていた頃、尾道の自主上映会で出会った映画でした。



向島 ③

中岡 徹 44-5617

映画の性格をこれまでとはいから変わったものにしてしまうと思えます。ビデオを私は否定はしませんし、その恩恵も受けてはいますが、やはり映画はその製作当初に前提とされている上映方法で観賞したい。

みなさんにも体験があるはず。若い頃に感動した映画のテレビ放映を見て、昔の自分を取りもどせましたか。

あれ、こんな作品だったのか、なんて感懐を持ちませんでしたか。フィルムもビデオも全く同じ映像が記録され再現されているはず。しかし伝わってくるもの、情報としての質は(優劣ではなくて)違うものだとおもいます。

誕生してやっつと百年にしかならない「映画」という表現手段は、誕生から間もない時点で基本的に完成してしまいました。その後、声を持ち色彩を持ちました。映画は映画として大衆の中に生き続けました。現在のビデオ誕生こそが

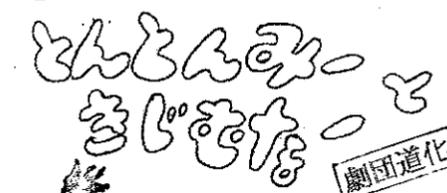
ねとすたっふ BE・IN・GO

僕ら自身のために、また未来への伝言者としての若者や子どもたちのために、この郷里で映画が観れる方法を、これからも考えてゆきたいとおもっています。

貝堀魚釣力ニ追々コ漁子供大人皆可遊海岸既台無人心荒廃招自然破壊即中止

● 因島おやこ劇場 第3回地域例会
5/22(日) 11:00~
弓削町老人福祉センター

おおらかなつながりを蛇皮線、人形達をまじえておしぼいに。



おまたせ! ぬげ公衆
ペア 2,000円
シングル 1,100円
(当日券は1,300円)
因島おやこ劇場事務局
TEL.(08452)2-4166
弓削は前田さん77-2569



3月、クラス会に出席しました。先生は、本人が忘れてしまっていた30年前の質問をずっと気にかけていて、最近「ついに解けましたよ」とうれいお便りをくださいました。深瀬徳子さん：もと高校教師(生物)現在NHK学園「自然観察講座」講師。市ヶ谷在住

30年まえの宿題

遠くから出席して下さってほんとうに有り難う。声をきいた途端、昔のあなたの顔が重なってともうれしかったです。

それからあの折お話ししようと思っていたのに忘れてしまった(この頃始終です)三十余年ぶりの宿題があります。

町田高校のあの頃「新島に行って抗火石とこのを見て来たのですがどういいう岩石ですか」と質問され、地学の授業に出てきた岩石にはなかったもので、ずいぶんあちこち調べたのですがわかりませんでした。まして私は新島に行ったことも無く抗火石というのを見たこともありません。火山関係の専門家は少ないし、伊豆諸島についての資料もなく、とうとうそのまゝ。

ところがこの二月、NHK学園のスクーリングで大島に行き、地元大島の火山専門家が講師だったのでおたずねしたところ、やっとわかったのです。

日本の火山は、大島のような粘性の低い黒っぽい色をした玄武岩や安山岩が多いのですが、新島は流紋岩といって、粘性の強い白い岩石からできていて珍しい火山だそうです。

抗火石の正しい名前は『黒雲母流紋岩』大島の地層の中には、新島の噴火の折の白っぽい火山灰が降り積った層がはさまれていて、実際にホテルの駐車場わきの崖で見えました。

三十年以上も持ち続けた疑問が解けたうれしさ。あなたに手紙を書こう。もし三月に逢えなかったらVと書いていたのに家へ帰ってから思い出すなんて、ほんとうに仕様もないことです。

弓削島という名を聞いたときすぐに弓削の道鏡を思い浮べました。これまでの日本史では悪名高いですが、実像は違ふと見直されているという話もきいたように思います。瀬戸内海でのスクーリングが出来たらいいなと思いましたが、どなたかお勧めの講師の方がおいででしょうか。(まだ実施できるかどうかは全く予定が立ちませんが)

とも御活躍なさいますように。又お逢いできる機会を楽しみにして居ります。ではお元気で。

一九九四年 四月 深瀬 徳子

改訂版 岡田源太郎の世界 自立篇 9

世の中で始末におえないのは、おせっかいだと思ふのだ。

あなたのおまわりにもいるでしょ、いちいちいろんなところに顔出してきては、偉そうに口出ししてしまつてしまふ奴って。

そんな奴があまりにたくさんいるから困つてしまふ。

僕の身近に感じるおせっかいな奴ってのは、学校と親なんだけども、なんかおかしい世の中だなぁ、とうんざりしている。

なぜおせっかいな奴うんざりなのかっていうと、おせっかいする奴が善意でやってくるからなのだ。まともな状況判断できないくせに、勝手に善意でことにして、正義という盾をもって、ほれほれほれほれとおせっかいされたら、これはもう絶望的にうんざりなのである。

僕が学校がバカであると思うのは、時はつねに流れて状況は絶えず変化しているのに、その流れについていけない、ということに非常にかバカだと思ふ。

まあひと昔前に学校制度が大成功しちゃったもんだから、その力を

善意でおせっかい やつてるみなさまには うんざりなのだ

岡田源太郎(16才)・文 内海亜子・絵



ずっと誇示していきたくってのは、わかるんだけどね。

でも、現状を把握してひくところはいつてもいいから、いつまでもおせっかいされたら、こっちはもううんざりしちゃうわね。

さあ自分たちだけであそばさつて時に、「あんたになにしようん。」ゆうて首つっこまれたらいやじゃん。

今、自分勝手な子どもが多いってゆうのは、僕のまわりだけかなと思つたら、どうやらちょっとした社会現象だそうなんです。

というのは、少々の自分勝手ないとまともに生きていけないからだと思います。

そういう現実を生み出しているのはなにか、という僕は善意によるおせっかい以外の何ものでもないと思ふのだ。

やや話がずれたので戻すけど、僕が今言いたいのは、善意でおせっかいやつてるみなさまは、自分がなやつてるか認識しなさい、と云つてやりたい。

言つたところで無駄だらうけど、言つていくしかないのだ。

広報をちこち

岩城

本年一月から『青いレモン』の島のマスケット&愛称』を公募していた岩城村では、このほど入選作の発表があった。全国四三六六の応募作中から、マスケットは新居浜市の曾根輝夫さん(四七才)、愛称は岩城村の島本真季さん(十一才)が選ばれた。それぞれ賞状と賞金十万円が贈られた。愛称『レイラ』ちゃんにはレモンイワギ、ライム

の頭文字。マスケットは二本のマリンブルーの波紋と緑のレモンを圖案化した。



双眼鏡

右は『あそびのページ編集グループ』のご好意により転載す

尾道に在るフリースクール井上塾に集る十代のこどもたちが『あそびのページ編集グループ』をつくりミニコミ紙を発行している。八八年六月にA4版二ページ第一号を発刊。本年五月で通巻六五号A4・十六ページ、@二百円購読者千八百人の堂々たるものに成長した。先頃『週間金曜日』二十一号にも「わたしは学校へ行かないわけ」という特集にグループから三人の意見が掲載された。同誌で斎

藤茂男(ジャーナリスト)は「不登校現象の巨大なうねりは文部省を確実に揺さぶった。この先、子どもが苦悩の果ての止むを得ない選択として、A逸脱Vをするのではなく、自主的・主体的・創造的・積極的にA逸脱Vし自分たちの人権としての教育を創りだす時代がくるかどうか・・・と現状分析をしているが『編集グループ』は希望の星だ。興味ある少年少女は戸を叩け。▼親と子の関係プログラムは今月休載。野・山は若い!

あたり おか 陸釣り

橋本健治

釣れない日だった。日比から土生へ移つても好転の兆しは無し。ツレは「ダメ押しより諦めが肝心」と姿を消してしまつた。一瞬動揺したが、汐は動かないがいつもより早い夕まずめになりそうなので辛抱、辛抱。

待つこと一時間あまり。いまままでピクリともしなかつた穂先が突然曲がりはじめた。長い長い沈黙を破つてのあたりです。はやる気持ちを押えてジッとみていると「真剣な目エしてどうしようん?」おもわずズッコケルお言葉。先程からズツと傍らで見ていた人の声である。

しつかり気が散つて(実は針がほどこけて)最後の望みも消えた。と思つたとたん、目の前に五十センチはあろうか大ヒラメが空を泳いできた。「もって帰りネエ」というお言葉とともに!

「エーッどうして?」と思つたのも束の間、この方は海神さまのお使いじゃ。感謝。感謝。夕まずめまで待った甲斐があった。あった。

先に帰つたツレにみせびらかしに寄つた。悔しそーにしているのが本当のことを聞かせてやつた。すると「陸でヒラメを釣つたのはおまえだけじゃ」しきりに感心している。「造り」にしたエンガワの旨かつたこと!

弓削通信

発行責任者
愛媛県越智郡弓削町
土生318-2 平山和昭
電話: 0897-77-3072

空とぶおやこ

再び『最も子どもに近い人』

一九九二年、県内の中学校に、業者テストの結果を提示しないように求めた埼玉県教育委員会の措置は、その後賛否の議論を沸かせながら、すでに全国的にみれば業者テスト廃止の方向へ世の流れを変えている。

「偏差値を重要視しすぎる教育の弊害が言われて久しいが現状を、仕方がない、で諦めていたら教育はいつまでたってもよくなるらない」という埼玉県教育長 竹内克好氏は、「なぜ私は業者テストをやめさせたのか」という本を書いた。

子どものしつけまで学校におまかせでは親とはいえぬ。今の子供の喧嘩は深刻だ。

内容の詳細については、一人でも多くの人にこの本を読んでもらうしかないが『学校に関する諸問題の原因は親の方にある』とする主張には、うなずけるものがある。

「学校に過大な期待と責務を押しつけ、親が本来すべきしつけすら学校にさせようとするのは、いわば子育てを下請に出すようなもの」とする先の竹内氏は「子供にとって親以上の教育者はいない」と声を大にしている。



何年か前まで、うるさいほどカエルの声ががしませんでしたか？
おたましゃくしが欲しくて弓削、佐島中ドンビキを探して歩きましたが、姿が見えません。水辺が整備されすぎて住みにくくなっているのでしょうか。

どこへいったんかのう？

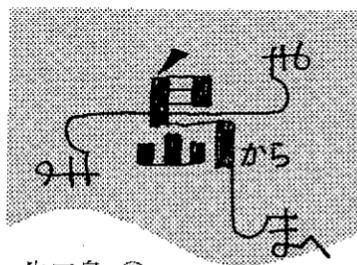
月、学校給食を平成六年度をメドに廃止したいと発表した前教育長が述べた廃止の理由が、この「家庭の教育力の低下」だった。

『生ゴミ処理コンポスト』
設置した所帯に補助があります。

町が生ゴミ堆肥処理に力をいれている。先月、各家庭に配られた「家庭のごみの分別と正しい出し方」の表にのっています。ゴミの減量と堆肥づくりに、この制度を利用しましょう。

やりたがりの芽

鎌倉 愛子



生口島 ①

同時に聞いた子ども楽園村の話には心が動いた。感性豊かな子供に育てたい。生の舞台を観たり、演奏を聞いたり、本物にふれさせたい。その延長線上に楽園村を思った。本物との

「お母さん、特別講習研さんへ行ったらいいますよ」と城さんが言った。

出会いは、夏休み体験学習。私の楽園村送りには、そこから始まった。楽園村から帰った子供達はキラキラ輝いて見えた。あまりに可愛い笑顔を見ることが出来なかったが、楽園村の暮らしの中で、晴やかで、無邪気な子供らしさが、呼び醒められた様だった。親から放たれ、ゆったりとした時間の流れの中で、自分で考え判断し行動する。子供の群と自然、牛や豚や鶏とふれあう中で、様々な発見があり、大切なことは何なのか、少しずつ気付き始めている。

この晴れ間はなつかしく。ゴロゴロ鳴くのは雨蛙。ヨモギでオロロ釣ったこと。海で小鮒がすくえます。田植え芋植え麦熟らし。やがて来るくる夏休み。

因島おやこ劇場
5周年記念
みんなあつまれ
6月25日(土)
因島市民会館

コンサート
14:00~18:00
18:30~20:30

【ワイ・ヤイ・ヤイ】文化センターボックス
南米にすむアンデスのような自由な心で歌うフォルクローレの世界
●会費外参加協力券(前)2,000円
因島おやこ劇場事務局
TEL.(08452)2-4166
ゆげ=友田 77-4285・前田 77-2569

★コンドルは飛んでゆく
★太陽の乙女たち ★花祭り
★ワイ・ヤイ・ヤイのテーマ 他

弓削通信

発行責任者
愛媛県越智郡弓削町
生318-2 平山和昭
電話：0897-77-3072

拝啓 議員様

猛暑の中、あなたのハートも熱いですか

私達は、生まれ落ちてから土に帰るまでのあいだ、数多くの言葉につきあうことになる。

言葉が口から耳へ、また口から耳へと、人の体を通り過ぎるたびに、いろいろな「思い」が垢のように付着し、誤解したり意図的に誤解させたりする事態のもとになっていくのも事実だ。

今はもう古くさい倫理かも知れぬが「言行一致」こそ美德だと信じてきた身にとっては、はるか国会議員の先生どもの言葉使いの狂態は「なんでもあり」のまさに平成戦国時代との感を強くする。

遠く異朝の出来事のような国会を横目に、ま近くは本町の議会をうかがふに、同じように、公益のための議論を露ほどもせぬ議員諸氏の存在意義をこそ、問わま欲しけれ、だ。

最近では、CATV(ケーブルテレビ)事業、公共下水道事業、弓削大橋架橋事業、ゴルフ場開発事業、あるいは、豊島コミュニティセンター事業など、本町にとっての重要性、あるい

負担額やら運営方式などはまだ検討中とかで、本年から工事が開始されることか念を押されたに過ぎない。例によって事業を走り出させたのち他愛のない質問をして何になるのか?

あるいは、大谷の消火栓が役に立たなかったことについて議会で話題になって

いるのに消防団長でもあるB議員の発言が求められなかったのは?

いつも3時間ほどで、ケリがついてしまいう議会ははじめ、何年たっても採算のあわぬ豊島の事業のように多額の運営資金を必要とする事業を起すわりに、中学高校の体育後援費の足しにと軒並み寄付を募る状況には鈍感だ。各戸を関係者として扱うのなら、たとえば中学校舎の改造が終了した

とか、あるいは齋場が完成した時もそうだったが「関係者だけの式典はやめ、まず一般の人に見てもらえ」と進言したらどうか。選ばれた関係者が紅白饅頭頂いても仕方なからう。いつまでも変らぬ発想で「文化の町の議員」の名が泣く。

当然のことだが、これらの事業が目指すものは、一番の関係者である一般町民がこの町に愛着することだ。だからこそ議員諸賢には住民の側に立った勉強をしてほしい。町民も自分たちが選んだ議員の言動には関心を持つてはならないか。なんでも「意義なし」なら議員はいらないのだ。何億円という単位や、よって立つべき故郷の自然が無造作に取り扱われているのに寒心を抱かざるを得ずここに苦言を謹呈する。



6月25日(土) 因島おやこ劇場「5周年記念おやこまつり」フリーマーケットこども市や紙芝居でにぎわった。

一週間で人生観が変わるって本当!!と言う会に参加したことがある。変わることが今より良くなるという言葉でなければ魅力がないのは当然なのであるが。

現状に対する不満が大きければ大きいだけ変わることに對する期待が大きくなる。又、現状の矛盾に気づかず今でもいいやと信念らしき自信を持ち、他の人の言うことに耳を貸そうとしない人も

いる。私の過ごした幼少年期は、田舎暮らしで、貧しい中にも自然に恵まれた山河の中で、多くの子供たちと群れて本当に楽しい毎日だった。

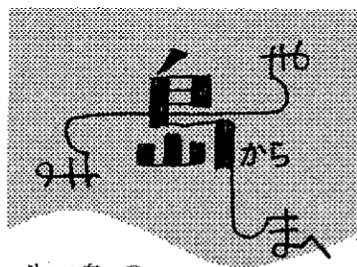
人生は楽しいのが本当であると思うのに、そうならないのが現実。学生時代は、ベトナム戦争反対等、公害もひと

く社会改革運動に関心をもち、以来細々ながらも継続してきたが、いっこうに変わる気配もない。変えようと思ってもなかなか変わらない政治情勢。皆んなが幸せで楽しい社会(理想郷)は絵に

変わるとは!?

鎌倉 真

昨年十一月に、ヤマギシズム顕示博覧会に行つた。不思議な社会だと思つた。今年の正月に(人生観が変わる)と称する講習研究会に参加した。



生口島 ②

変わることは不自然で合理性のないものなら、変わることに迷いがあるだろうが、不自然な状態(イライラした、楽しくない、他人を憎むとか)から自然な状態(ユッタリした、楽しい、人を愛する)に変わることには何の躊躇することがあるうか。

変わるのではなくもどることであつたと私は感じた。幼少年期の本当に楽しい人間関係は、社会性を築くものになるし、自然に触れれば、根気よく育てられる。これは心のユートピア。そこに戻るのが本当!

今年十一月に、ヤマギシズム顕示博覧会に行つた。不思議な社会だと思つた。今年の正月に(人生観が変わる)と称する講習研究会に参加した。

変わることは不自然で合理性のないものなら、変わることに迷いがあるだろうが、不自然な状態(イライラした、楽しくない、他人を憎むとか)から自然な状態(ユッタリした、楽しい、人を愛する)に変わることには何の躊躇することがあるうか。

変わるのではなくもどることであつたと私は感じた。幼少年期の本当に楽しい人間関係は、社会性を築くものになるし、自然に触れれば、根気よく育てられる。これは心のユートピア。そこに戻るのが本当!

★今回は原稿を書くのを、とても楽しませてもらいました。まず私が書いた原稿を、主人や友人に読んでもらうと、かなりおもしろい意見が、帰って来ました。

ひとりの友人は「なにが言いたいのか解らん」と言い、もう一人は「後半は共感できるが、前半はいらない。前後のつながりがないし、群にこじつけてる」と言いました。

夫は「前半は良いが、後半はくさい」と言いました。彼のいうくさいは、もっともらしくて、いやらしいという意味かと思ひます。

全て、もっともだな~と思ひました。自分が書いたものを客観的に見るのっておもしろいですね。

自分が書いたと思ひていても、それは過去に誰からか教えられたものであつたり、本から得たものであつたり、漢字などは辞書を引いたり、何一つ自分のものと言へるものがないのだな~と思ひました。

「書きなおした方がいいね」と夫にいうと、「批評する前にワシも書いてみようかおう~」と言って書きはじめ、書いた原稿を「まずいの~」と言ひながら私に見せました。

私はこねくり回してない分、素直で良いと思ひました。今回、夫の原稿を使ってください。

皆で批評しあつたのも同封します。個人的に楽しんでみて下さい。 1994・6・30 鎌倉 愛子

*皆で批評しあつたという原稿は、里のじいちゃんと孫との交歓風景、それを見ながら、こどもがそだつ環境について感じたことなどが書かれていひるいい作品でした。(編集子)

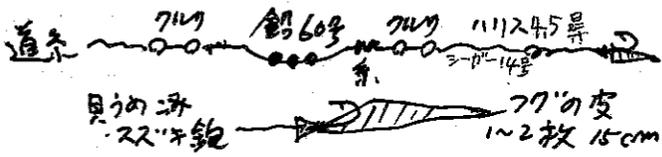
黒潮だより

弓削通信をありがとう。日本の僻地に住んでいると段々に筆不精、出無精になって、ちよいとがきかなくなって終った。

漁の方、今年は多少黒潮が房総半島に接近してくれたのか、布良瀬の潮流が、正常に流れはじめたのか、ねらい目のヒラマサが、5月の月にはここ2~3年になく釣れたが今度は不況とかで値段の方が上らず漁業者も大変だ。

6月の声を聞いたとたんに魚影が少なくなり少々寂しい。同じ釣り仲間と思っているせい、橋本さんのエッセイ、何時もたのしく読ませてもらっている。

○房総のシャクリ漁 対象はヒラマサ、ブリ、カンパチ。仕掛け 道糸26号、100m(ビフ)テンピン(在り)



磯根の上、潮流に逆行、船はその場か少し前に進む。テンピンを投入、鉛が海底にタッチの瞬間、大急ぎで棚とりあと大きく腕を降り込み、たくり寄せる。ここが技術。グリーンと一気に魚が食い込む。小生は過去に15・8kgが最高。引縄では20kgいずれもヒラマサ。 6月16日・正人

主張をもっと明確に

前略 いつも弓削通信をお送りいただき恐縮です。再刊されて何よりでした。益々みがかがかったように思います。なお“主張”をもっと明確に打ち出しても良いのではと思いつつ拝読しています。単なるミニコミ紙、タウン紙ではないのですから“公正中立”などという大儀は不要のものと思えます。益々のご発展を祈っています。 1994・6・30 米倉

私 お節介してます

今回の記事で「善意でおせっかいやてるみなさまにはうんざりなのだ」という岡田源太郎君の言葉が一番身にしみました。本当に、あなたの為に・・・と思つてついおせっかいをして嫌がられている私。・・・なんとか直したいのですが……。それから30年前の生物の先生・・・徳子という名前ですから多分私達も教えていただいた先生と思いますが、どうしても旧姓が浮びません。これは早川さんに見せて思い出します。もう1つ私と関連していた記事・・・明日は婦人デーで、近くの映画館が1000円なので「シンドラーのリスト」を見に行こうと思っています。ところで、シンガポール同窓会ツアーという企画が出来て、私達同期生8人で行ってきます。 5月18日 青木

双眼鏡

▼新聞に弓削通信が折り込まれてる千八百戸の皆さん、全国の読者の皆さん、昨年はサムサノナツハオロオロアルキでした。今年もヒデリノトキハナミダヲナガスコトのないように!▼この夏、賢治に遭える予感▼で8月は休刊します(平)



シンガポール そう行きたい場所ではないが製図科の仲間とだったらどこへ行っても普通の観光にはならないと思う。蒼き狼 チンギス・ハーンのモンゴルに恋しているんだ。モンゴルにはどうしても行きたい。では又。 六月一九日 三宅

暑中お見舞い申し上げます。お便りありがとうございます。

わがふるさと 故郷は古い母のごとく

平山 忠義

「けさのオドロキにイメを見てノオ……」という祖母のことが少年の私には不審であつた。「けさ夢を見て驚いた……」ではないのか。イメは詭りだらう。それと話の終りにノオをつけるのは品の悪い方言として、学校の先生や都会帰りの人々からよく咎められたので、その話し癖には罪悪感が伴つた。その不審や方言コンプレックスから私が解放されたのは、長じて古典文学を学ぶに至つたからだつた。

オドロキもイメもノオも、みな由緒正しい大和ことばだと知つて、私の無知を詫びたいと思つた頃には、祖母は既にこの世の人ではなかつた。「ほんに、せつなやノオ。」私の故郷は、瀬戸内海のはぼ中央に点在する芸予諸島の東端に位置する弓削島。行政上は愛媛県に属するが、距離的にも、京阪神への交通の便からも、四国路の今治より、広島県の尾道への往來の方が昔から多い。しかし、周囲わずかに五里ほどの小島、物産も乏しい。ただ、海上交通の要衝にあたるので昔から船乗りが多く、進取的で、明治34年にはいち早く二か村組合立の弓削海員学校(現在は国立弓削商船高等専門学校)を設立し、以来一世紀近く、外国航路船員を多数養成して近代日本の海運発展に貢献したが、それだけ戦中には徴用船員としての犠牲者も多かつた。この渺たる小島には不相応とも思われる古墳(七世紀頃と推定)が七・八基もあつて謎めくが、弓削島の名が歴史上の文献に登場するのは、平安末期から室町期にかけての「塩の莊園」としてである。その文献は京都の東寺に伝来された三百余点の古文書が中心であつて、その研究書の一つ「弓削島荘の歴史」(山内護著)によると、弓削島荘は鳥羽上皇

の関与の下に保延元年(一一三五)に立荘され、後に建礼門院(清盛次女、安德帝母)の乳母藤原綱子の所領であつたが、平氏滅亡に伴い後白河法皇、次いで宣陽門院の所有を経て、延応元年(一二三九)東寺に寄進されたとある。そういう歴史背景の下に、中世海運の要衝であつた弓削島へ、昭和56年7月、浩宮徳仁殿下がご来島されたのは、殿下の大学卒業論文仕上げのための実踏であられた由。文治五年検注取帳に詳細なるふるさとのお小字今に変わらず、二一八九年の現地田圃調査帳ふるさとを古文書にたどれば源平の興亡俄かに身近に迫る。 昭和11年、日本童謡作曲の第一人者本居長世(宣長五世の孫、「十五夜お月さん」赤い靴)など多数作曲)が来島して作詞作曲された弓削小学校校歌の第一節は「松は緑に砂白く/波も静け瀬戸内/弓削の小島の学舎の/おのづからなる幸みずや」であり、当時はその歌詞どおりの白砂青松の海岸美であつたに今はコンクリートの護岸に覆われ砂浜も衰退し、潮干狩もできぬ有様。まるで数えゆく古い母のようだが、やっぱり懐かしい。昏れなづむべた風ぎの海のしづけて向かひの島のうぐひす聞かす

★平山さんは東京在住71歳。本文は「短歌生活」1994年7月号より転載。

へ女の家

弓削通信ありがとう。和田(深瀬)先生の貴女への回答も素晴らしい。生物が多少私にとつて強い科目になつたのは先生のおかげといまでも思つております。教師の力、まして生徒に及ぼす力は偉大なものがある、

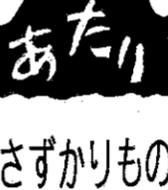
夏とちらへ行きたーニヤ

こんにちは。私は中学生になりました。中学生は小学生と違って大人です。私は前のイワシを釣つたときの快感は忘れません。また夏にそちらへ行きたーい。私、うちの猫は元気ですか。私のうちの猫は、もう太つて、もう凄いです。それじゃあ、また手紙出します。 りえ&ひろみ

あの当時の私達は 向上心に燃えていたので熱心な先生にはよく議論をふっかけていた。特に貴女はそうであつた。あれもたしか進化論かなにかの授業で、食物によつて生態が変わる動物があるというふうな説の時、口をとがらして、同じ物を食べている動物は、はるか遠い将来には同じ種類の動物になるのですかと云つてましたよ。

青春時代の勉強とはこういうものでなくてはどう思いますか。ひとつ、和田先生は、君が代について、さざれいしのいわおとなりては間違ひである。と生物学的に批判していたのが印象に残つた。 追伸 きみちゃんに所用があつて電話しました。 次男が留学希望ときいていたので、あの畑、次男のために売つたのときいたところあの畑は売れなくなつちやうなんだよ。のんちゃんの一家、建設のためにね。 あの のんちゃんの情熱に 応えるきみちゃんも又えらい。 着々と準備をしているそう。 製図科の黄金時代が来るようです。

干潮時刻を二〇分も遅くなる。あわてて餌掘りの現場に出てみると浜にはアオサがベッタリ敷きつめていて。とつとつに潮止まりを過ぎていくので、三々五々引き上げてくる先客の中に、見覚えのある顔を発見。 まずい。たぶんこちらの餌掘りを観察される。 敵さんも今の時季、大物も食い渋つているゆえ、いろいろ考えあぐねているはず。ここで手の内を見せてなるものかと、びしりのアオサを、さも何か探しているかのように鉄でかきわけ……。ところが……。 這い回っている。いる、いる。ギザミを釣つてくださると言わぬばかりの、型のそろつたシャコが! もちろん、まっとうに汗をかいてもよかつたのだが、それではせつかくの撰理に對して人間として申し訳ないの、アオサのなかにいるシャコに出くわしたことを活用することし、弓削ロッジ下でギザミを狙つてみた。カラッと晴れたギザミ日和ではなかつたにもかかわらず大漁。納竿間際のチヌのおまけまで。 もし人の目を気にしての一連のあの行為がなかつたなら今日の楽しさは味わえなかつたわけで、改めて自然の撰理に感謝、感謝だ。



橋本健治

弓削通信

発行責任者
愛媛県越智郡弓削町
土生318-2 平山和昭
電話：0897-77-3072



▲弓削幼稚園 幼年消防クラブのこどもたちの作品

去る八月十七日、因島市三庄奥山での山火事は結局三日三晩燃え続け、約五十ヘクタールを焼きました。対岸の火でしたが例年になく、猛暑の中、昼夜を分かつた消火活動に従事された方々にはほんとに頭が下がります。周囲を水に囲まれているとはいえず、し海岸から遠くまで燃え広がっています。

ウーにきりめし

と鳴った

使用捨て」にする「悪しき伝説」がまだまだ生きています。一般にどうい理由か、ひとり防災活動(火災、風水害、海難など)を支える縁の下のシステムには旧態依然のものがあるように見受けられます。用がなくとも月に行ける時代です。携帯食料なんか長足の進歩をとげているのですから「その気」があれば常備などわけない筈です。自治体はためらわずそれらを備蓄し、せめて腹が減って目がくらむような目にあわせてはなりません。

のけば今の島の防災態勢では間に合わぬ現実が良くわかった出来事でもありません。ところで、火事の度に耳にする「消火に携わっている人たちが空きっ腹で炎と格闘している」というのがあります。「腹が減って腹が減って」とはこのたび出動した人の弁ですが、昨年三月の弓削町佐島、福羅での山火事の時も同じことを聞きまし

「このことは厳しい言い方をすればシステムが整備されていない」ということになり。とくに一日の勤務のあとかけつけ、とてつもない重労働に従事しているのに夜の八時、九時になっても腹ごしらえが出来なかったなどと言います。そこで非常事態を口実に「人を

使用捨て」にする「悪しき伝説」がまだまだ生きています。一般にどうい理由か、ひとり防災活動(火災、風水害、海難など)を支える縁の下のシステムには旧態依然のものがあるように見受けられます。用がなくとも月に行ける時代です。携帯食料なんか長足の進歩をとげているのですから「その気」があれば常備などわけない筈です。自治体はためらわずそれらを備蓄し、せめて腹が減って目がくらむような目にあわせてはなりません。

「猫の事務所」があった。たぐさんの研究書が並べられている書棚のまえに一人の青年が静かにたたずんでいた。今年二十一日には九十八才になる宮沢賢治だった。展示している書物の中で自分にも読めそうなものを捜していると以下に紹介する三冊を手渡してくれたのだった。

一方、よき伝統である地域の人たちによる「炊き出し」にしても、状況判断に手間どり、かつ決定権のない窓口では心利く人たちが協力したくともどうしようもありません。仮に災害が小規模の結果にすんでも一人が動けば腹はへる」のですから地域の

「猫の事務所」があった。たぐさんの研究書が並べられている書棚のまえに一人の青年が静かにたたずんでいた。今年二十一日には九十八才になる宮沢賢治だった。展示している書物の中で自分にも読めそうなものを捜していると以下に紹介する三冊を手渡してくれたのだった。

昨年秋の秋口に弓削の棧橋でカワハギをすくった。爺ちゃんに習ってオキアミを撒き、寄ってきただカワハギを棧橋の上から網ですくう。十二、三センチほどの一度に二、三匹かかったりすると子供達は躍り上がって喜んだ。

参加したお母さんが「群れ」を知らない親が子育てをするとき、子供も群れることが出来ないのがあたりまえ、と話していた。海で遊ぶ楽しさを知らないで親になったとき、とらわれ、決めつけ、思い込み、といった自分の物差しを放してみる。一つの思いに執着すると全てがそこで止まってしまう。とらわれがなければいきつまりがない。今、生きている私達ひとりひとりの心、生き方人生観が未来を作っていくのだと実感する。

百花巻の山中に
イーハトーブ館がある

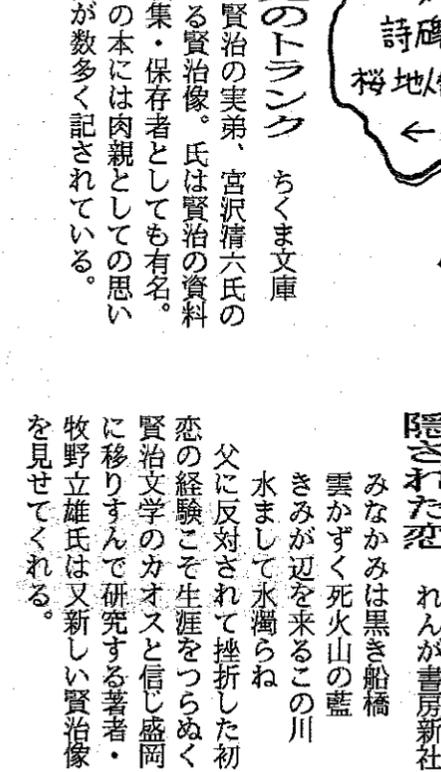
そこに入ると「猫の事務所」があった。たぐさんの研究書が並べられている書棚のまえに一人の青年が静かにたたずんでいた。今年二十一日には九十八才になる宮沢賢治だった。展示している書物の中で自分にも読めそうなものを捜していると以下に紹介する三冊を手渡してくれたのだった。

兄のトランク ちくま文庫
賢治の実弟、宮沢清六氏のする賢治像。氏は賢治の資料収集・保存者としても有名。この本には肉親としての思い出が数多く記されている。

隠された恋 れんが書房新社
みなかみは黒き船橋雲がすく死火山の藍きみが辺を来るこの川水まして水濁らね父に反対されて挫折した初恋の経験こそ生涯をつらぬく賢治文学の才と信じ盛岡に移りすんで研究する著者・牧野立雄氏は又新しい賢治像を見せてくれる。

当代一の劇作家による賢治の作品(童話)新解釈。たとえば「セロひきのゴーシュ空の六日間の謎」のように目のつけどころが違うぞ。

イーハトーブゆき軽便鉄道 リポレポート 別役 実



今世紀最高のドキュメント
映画

地球交響曲

ガイアシンフォニー

この映画は、21世紀の到来を前に、地球の未来にとって、極めて示唆的なメッセージをもつ世界の6人の人々のオムニバス映画です。登場人物はいずれも、現代の常識を越えた事を成し遂げた人、あるいは体験した人達です。今生きている我々ひとりひとりが、「心」にどんな未来を描くかに依って、現実の地球の未来が決まってくる。映画「地球交響曲」が、全ての人々の「心」のための元氣薬になればと願っています。 龍村 仁



頂上へのアタックを開始するときの到来を、メスナーはいつもその「少女」との対話の中で続ける。方角を見失ったときも、脱出ルートを探るときも、その「少女」はいつも側に現われる。酸素ボンベも無線機も持たず、たった一人で登るメスナーにとって、その幻の少女だけが、唯一の、真のパートナーだ。ラインホルト・メスナーは世界で唯一、単独で世界の八千メートル級の山全てを登り尽くしたアルピニストの王者。そのメスナーが、臨死体験や人間の生命力の限界について語る。



「トマトは心を持っている。私は、そのトマトの心にあずね、トマトに教わりながら、成長の手助けをただけなんです。たった一粒のごく普通のトマトの種から、バイオテクノロジーも特殊肥料も一切使わず、一万三千個も実のなるトマトの巨木を作ってしまった野澤重雄さんはそう語る。この映画では、トマトの種植えから一万三千個も実のなる巨木に成長するまでの過程を克明に記録しながら、野澤重雄さんの、科学の常識では理解できない、トマトの生命哲学を聞く。



体高3メートルを越える巨大な野生のアフリカ象と一人の人間の女性との間に「言葉」を超えた深い愛情と信頼の関係が今も続いている。ダフニーはアフリカのケニアで、象牙密猟者のために親を殺された象の赤ちゃんを育て、野生に還す活動を過去30年以上続けている。エレナは、ダフニーに初めて育てられ、野生に還って行ったメスの象。今、小象に野生で生きる知恵を教えている。ダフニーとエレナの感動的な再会のシーンを中心に象の社会から人間社会へのメッセージをダフニーが伝える。



神話と妖精とケルト遺跡の島、アイルランド。そのアイルランドから聞こえてくるエンヤの歌声は、我々の魂の奥底に眠っていた遠い記憶を呼び覚ましてくれる。その神秘的な歌声には、自然の全ての現象に神が宿ると信じた古代ケルト民族の宇宙観が宿っている。エンヤの歌声は、我々を異界の海へと誘う幻の小舟。水先案内人はケルト美術研究家の鶴岡真弓。エンヤの生まれ故郷アイルランド北端の小さな村を出発点に、アイルランドの自然とケルト遺跡を訪れる幻想の旅。



アポロ9号の乗組員だったシュワイカートは、ある不思議な体験をした。その体験は彼の人生観を大きく変えてしまった。宇宙の完全な静寂の中に一人取り残された時のことだった。「ここにいるのは私であって私でなく、眼下に広がる地球の全ての生命、そして地球そのものをも含めた我々なんだ」人類はなぜ宇宙に向かおうとするのか？人類の宇宙進出と地球の未来をどのように両立させることができるのか？アメリカの元宇宙飛行士が科学技術の最先端で理解した生命観を語る。

瀬戸田 中国新聞記者、石田信夫氏の書いた「潮騒とクラシック」という本が評判になっている。和気瀬戸田町長の町づくりを描いていて面白い。

今治 伊予水車とうず瀬川の絵がついている市のマンホールのふたを見たことがありますか？で始まる南中一年佐野祐子さんの作文が建設大臣賞受賞！

伯方 六千人が楽しんだ「はかた夏祭り」は八月十四日に開かれ伝統の木山音頭による盆踊りや初の盆踊りコンテストで夜ふけまで盛り上がった。

岩城 恋愛情たぎる島の夏。青いレモンの島まるごと体験ツアーの騒動記が広報九月号に載っている。全国から集った乙女たちと島の息子たち！！

生名 自然いきいき人もいきいきいな村しまのイベントや完成したサウンド波留田(はかんだ)や名所を盛り込んだ観光案内書が出来上がった。

因島 第十二回アジア大会聖火が九月二十四日午前10時、港湾ビルに到着する。計五十五名の走者により因島勤労者体育センターまでリレーされる。

10月7日(金)

場所/因島市民会館 大ホール
時間/18:30~20:40

上映協力金/シングル券 1000円、ペア券 1800円(前売のみ)
主催・チケット取扱い/ガイアネットワーク因島 ☎08452-2-2544
弓削での取扱い/弓削通信 ☎77-3072、前田 ☎77-2569

ガイアシンフォニー

監督 龍村 仁 / 出演 ラインホルト・メスナー(登山家) タフニー・シュワリック(動物保護活動家) 野澤重雄(植物学者) エンヤ(シンガーソングライター) 鶴岡真弓(ケルト美術研究家) ラッセル・シュワイカート(元宇宙飛行士)
挿入曲 エンヤ 宮下富美夫 / 声の出演 木内みどり 榎本孝明 藤田良 潮川れい子
企画・制作 株式会社 SEDIC / 制作 株式会社インサード / 後援 センターグループ
協力 株式会社 西友 / 協賛 カゴメ 日清製粉 雪印乳業 配給 株式会社セン
1992年 日本映画 / カラー / 2時間10分 / ドキュメンタリー作品

●地球は一個の生命体であるという意識が随分前から有りました。水も木も空も土も、そして自分もその一部である。

国境も隣との境も人間のエゴが引いた線ではなく、民族、人種、国家、宗教、その壁を取り払われ意識が一つになった時のことを私は知っています。人間は無数の可能性を秘めた存在であることを知っています。

そして、それを教えてくれるのが、この「ガイアシンフォニー」です。 榎本孝明(俳優)

●「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない！自我の意識は個人から集団社会宇宙と次第に進化する」と予見したのは、1926年の宮沢賢治であった。その彼が「地球交響曲」を観たら、自分の予見がけって間違っていなかったことを喜びと痛みをもって思い知るであろう。

鎌田東二(宗教学者)

天地人

島田 英好

「人職」。

昔から天地人が調和すれば最良と言われ何事にも尊重された。人の生活でも、天地人の調和が幸福の根源であると思う。人には男女の別があり、その協力で国も社会も家庭も安定し永続し得ている。自然の構造は一つで其のどこかに人間が棲み、他の生物や環境と競合したり利用したりして生きていく。協力も競争も種族の永続と繁栄のために行なわれるもので、生きるための苦業は生物の天命でもある。

協力協調をして生きるか競争奪略をして生きるかを選ぶのではあるが、相手や環境が変わるので自分一人だけの考え通りには進め難い。例えば景気一つ見ても世界中の賢人や権力者が集まり相談しても不景気や、難民、餓死者の出るのを防げない。一番賢いはずの人類が一番多くの悲劇を作っているのではあるまいかとも思われる。人間が自分の知恵に

83才・浜部(投稿)

双眼鏡

旅から帰るとすぐ賢治と一緒に森羅万象を楽しむ『アルビレオ』創刊号という雑誌が届いた。盛岡に住む妻方の叔母からの贈り物だった。白鳥座のくちばしに位置するオレンジとブルーの二重星。新種のリンドウにもこの名が

あるそうだ。イーハトーブの人達はいままでいままでも賢治と遊ぶことを止めるつもりは無いらしい。そして何とこの雑誌の編集人は牧野立雄となつていないのか。猫の事務所へ出遭ったのは確かに賢治に違いない。現に証拠の本もある訳だし(平)

湧れ自然本来のみちを踏み外しているからではあるまいか。人に生まれながら性別、個性があるのは天職が与えられているからである。生きるために必要な物は充分持ちながら、雀や猫にはたぶんあるまいと思われ「生きる苦しみ」を訴える人で病院は溢れている。性別による「天職」、共同社会のための分業という「地職」、各人の個性を活用し、自分や社会生活を豊かにする。

この三職にお互いの心が今以上に向けば、豊かな社会も自ずから生まれるのではあるまいか。自然の理に目を向け、外形よりも本質へ。他人と自分の違いを認め合い、扶け合う心。それはまず自分から、まず弓削から、まず日本から始めていきたい。利口馬鹿の観の今の日本からの脱出はさてそれからであろう。



橋本 健治

猛暑、水不足で四苦八苦の夏をすごした因島、弓削島に対して、生口島のサンセットビーチではせつ々しくの観光客に不便をかけることがなかった。近年になり入場者になったと聞く。なんと五〇万トンもの貯水ダムのおかげだそう。貯水のまねをするカラスではないのだがあわてたのが因島。数年前ダム建設の話が出たときは、ダム？アホこくでないかと取り上げてもらえなかったが、どっこい先の大火での水不足で痛い目にあい、今度は作るうとのななしになったらしい。 こういう飛び火は最もおそろしく、すぐ、例えば四万十川にダムを・・・という話になりかねない。 瀬戸内の島々では水不足対策として昔から貯水池でしのいできた。ダムも貯水池も弓削にはあるが何とか役に立てたかった。 話は飛ぶが、海の塩分が濃く、時折降る雨で冷却されるはずの水温も高い。魚たちも平年であれば山からの水によって河口では色々な食物を口にしていた。だから、今か今かと川の水を待っているはずである。 九月と聞けばクロダイもスイカ、イモダンゴ、生ミツクなど野菜類に食いつく季節である。今年は特に。

弓削通信

発行責任者
愛媛県越智郡弓削町
土生318-2 平山和昭
電話：0897-77-3072

未来に架ける ほんとうの便利さとは？

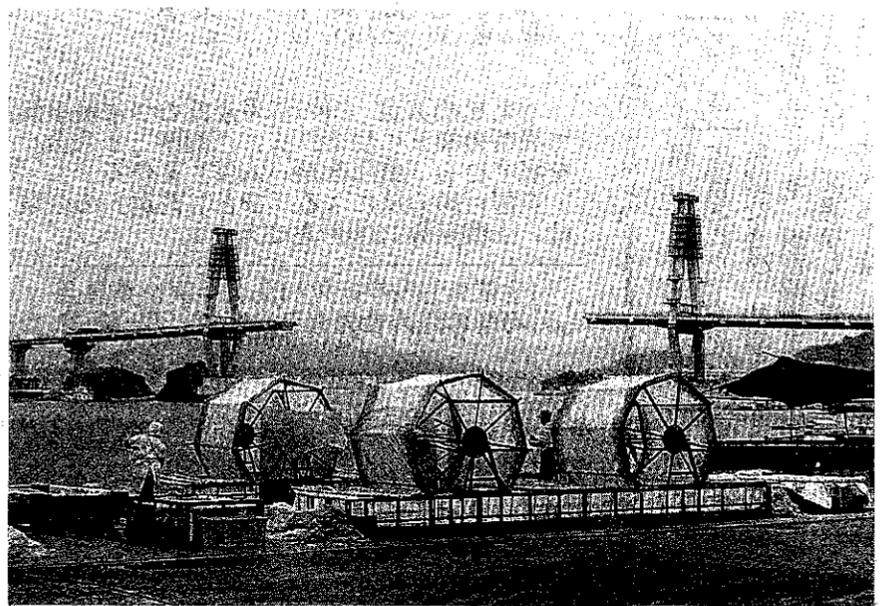
暮れ泥む空に、造りかけの弓削大橋のシルエットが高々とそびえている。三ツ小島が小さく見えまゝ。来年の完成めざして順調に進行している模様だ。身の丈をはるかに超える巨大なものに接するとき、人間の心は高揚する。造る人も、観る人も高揚する。モニユメント(記念碑)を造りたがった古人の願いは「永遠の命」だった。弓削大橋は巨大モニユメントだ。木下町長の威信と情熱をかけたこの橋、結局「その後」が記念碑に刻まれる言葉となるだろう。完成後、弓削町はどのように変わるか楽しみだ。

産業の活性化、雇用の増大、交通時間の短縮、無医地区の解消、行政の効率化とサービスの充実。これらはみな架橋のもたらす効果とされている。なるほど。佐島と弓削島がつながれば、町民運動会や町展も佐島で開催されるだろう。子供の数が減っても、生徒がいる間は佐島小学校は統合されないだろう。交通量も増え、ひよっとして土生(土)の沿道は道路拡張のため立ち退き要求が出てくるかも知れない。「代替地は自分で探してください」とか言って、みんな立ち退くだろう。

なるほど、一つの無医地区はなくなるともいえる。だが、「有医」の弓削島では歯医者一人、外科医も一人、それで全部。声を大にしていることか？ 老いた医師が昔日のごとく駆け回れるのか？ 足れりを知るは君子の美德ではあるが。せわしない世、交通時間を惜しむ人は多かるう。船

弓削大橋のまん中に 昔なつかしバンコを据えて はるか見おろす天の川

だ、弓削まで十ふん、因島までだと二十分。たぶん船便は廃止でバスがくるから、バスで橋を渡ると下弓削港まで十ふん。で、機動力がない人なら一時間。年寄りが車つっぱりヨチヨチ歩いていたのでは日が暮れる。足がわりの乗物が必需品となれば、その関係の商売は見通し明るいぞ。駐車場も、事故も苦情も増え、磯が荒れ、渚が消滅する。ゴルフ場開発もまだ「や」と言っている。人にとって何が大切か知っている硬骨の地権者は年ごとに煙となつていっているので、もう少し待てばできる。はやくも橋近くでは電波障害が生じ、CATV事業には幸先よい影響といえよう。CATVのケーブルも橋を渡るのかな。住友や三井に続き、三菱もCATV事業に本格参入をするという。五五吾儘おいしい商売とみえる。人生をりモコンされるため喜んで大金をはたくひとが多いなか、かねのためなら何でもする巨大資本。各市町村のCATV事業は早晩キンタマを握られる運命にあるとみた。長年、町民の生命をささ



▲建設の進む弓削大橋の近くで、海苔養殖の作業も始まった(土生)

えた深坂(さき)・漆(うるし)の池も半分ぶっ潰されて橋のための道路になる。素敵だった景観も二束三文の溜め池になるが、すぐ慣れる。「もう要らんから埋めて広場をつくらうや」という話になって大丈夫だ。まてよ。そもそもあの池は誰のものだ？ 又の日照りの夏もオロオロしながら秋を待つ、か。佐島の秋祭りは夜遅くまでまぜくるといふから青少年の交流は繁くなり、寂れかけた祭は盛り上がる。にくたれ口はこれ以上きくまい。が、「期待効果」がホンモノの効果になるには借り物の衣を脱がねば駄目だ。工費約四億のうち、町の負担二五%。維持費付。巨大モニユメントだとみる、以上が「理由」だ。

* 生名島みてある記 *

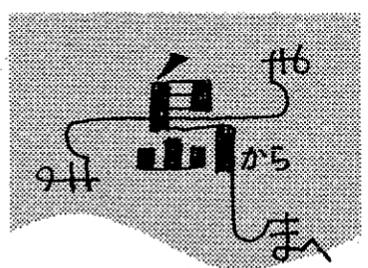
生名村観光パンフレット片手にバイクで生名村に観光ハイイクに出かけた。カモメが飛ぶ姿をデザインしたというサウンド波間田(なま)が観たかった。

護岸で海と仕切られた埋め立て地に、キャンプ場にもイベントにも使えるという芝生広場があり、トイレはきれいで機能的で、体の不自由な人のための配慮もできている。そこにくだんの屋外ステージがあった。なるほどカモメだ。しかし施設を回ってみると、地に足が着いていないつまりデザインナーの口車にのせられてしまった施設との印象が変わった。グッドデザインとかパッドデザインとかいう。真に有能なデザイナーは妥協はしたがらない。むしろ信念

を持って発注者の説得もいとわれない。様々な眼が自分の仕事を観ることを知っているからだ。かんかん照りで木陰もない広場では、とても夏にキャンプする気にはならないだろう。砂浜は護岸とはなじまない景観だ。山の中腹にある噴水広場にいたる石畳。山に登る坂道はみな階段仕立てとは！ 階段を上ることの過酷さを知らず、とても足の弱い人のことを考えにいれているとは思えない。もともとこのような施設は若者も年寄りも使えなくてはず打ちがないもので見栄え優先では最新型のトイレの値打も飯の姿だ。

「アイスコーヒいかがっすか!」「おいしいですよ!」
九月四日のいんのしま水軍まつりに「因島おやこ劇場」は、おまつり広場に参加しました。子供達は手作りのわらびもち、ところてん、アイスコーヒ等を売りました。声変わりの最中の息子のかけ声も時間が経つにつれてそれらしくなってきました。

「アイスコーヒいかがっすか!」「おいしいですよ!」
昨年まではいやいや、シブシブだったのに今年は一ええよ、僕がするから母さんはあっちへ行っときー!」
なんと、なんと。まわりは同年か年下の女の子たちで少し照れもあったのかも知れませんが、え



因島 [1]

らいことです。今年も断水、山火騒ぎで、おまつりもほとんどいいかとコーヒー用の水を取っていたら「僕がとってあげるわ」とベツ

ぎこちないけどそれなりにやっています。隣の女の子にも負けまいと声も良く出ているぞ。水軍まつりなのに小早レースも観ない。ただ隣

青木 喜代子

「おい、うるさい親たちはどうする?」「そうじゃねえ。やっぱり声くらいかけんといけんと思うよ」親抜きの実行委員会でごんなな話が出ればそれはそれでうれしい。親たちは当日ヒョコヒョコ出ていき、テキ屋のバアさんよろしくテントの中でキセル煙草などくわえ「面倒おきたら言うてみていもの。」

因島市民△芸館横に図書館が建設されました。
『芸予文化情報センター』11月オープン

下北半島に生まれた女の一代記
愚安亭遊佐ひとり芝居

人生一発勝負

下北半島に生まれた女の一代記
原案・松橋勇蔵
脚色・構成・演出・結純子
北海道のシブ場生まれ、
海を厭いながらも津軽海峡に
面した漁村に嫁ぎ、
そこで一生を終えた女の物語。
失われた母の時代の記録。

11月13日(日)
午後6時開演
芸予文化情報センター
(因島市民会館となり)
公演協力券 3000円 全席自由



ひとり芝居 愚安亭 遊佐さん

自分の生まれ育った下北半島、その漁村の歴史と漁民の生活を故郷の言葉下北弁で、時には老婆に、時には親父に子供にと、すべて一人でたくみに生き生きと演じ切る。

ひとり芝居にかけては、小沢一郎をしのぐ人気を保持している。たつぷり笑わせ、ぐっと泣かせる語り口。故郷の海と人間への大きな愛を私達にしつかり思い起こさせてくれます。女の悲しさ強さを込めて弾く津軽三味線と、見どころ満載。

本名松橋勇蔵。1946年青森県むつ市関根浜で漁師の網元に生まれる。「劇団三十人会」を経て自ら「劇団ほかい人群」を作る。全国行脚の旅による「ひとり芝居」の公演は、上演回数1200回をこえる。

主催★愚安亭遊佐因島公演実行委員会
弓削の間合せ先★弓削通信 (77-3072)

広報をちこち

尾道 JR山陽本線東尾道駅(仮称)新駅設置が一步前進。

瀬戸田 第三回タイ王国体験研修団が八月二日派遣された。

因島 奥山火災の概要が広報された。出火原因たきび、被害面積約五七ha、損害額約五千八百万円、死者なし負傷者五名、へり延べ二十機、等々。

岩城 九月七日、かねてより交流のあった美川村内五校の小学校から岩城小に友情の水、2トンがプレゼントされた。美川の生徒の発案が実現した。

大三島 第三回京都日本画新鋭展が十月三十日まで大三島美術館で開催されている。二名の若手俊英作家の意欲作を集め激励顕彰するのが目的。

今治 市職員の給与等がくわしく広報された。職員平均給与は国より約七%多。市長九六万、議長五六万、議員四七万。平均退職金約二千五百万円。



十月九日くり祭り 土生 来名戸神社は子供の参加でにぎわった。

『弓削島荘の歴史』早速に送ってくださった有難う。『弓削島荘の歴史』は暇々に少しずつ読んで楽しんでいきます。文献が残っているということ、やはり貴重なこと。島でも、人でも、書き残すことの大切さを、しみじみ感じます。名実共に、実力ははるかに上と思われる隣の因島の歴史なども、文献の有無が問題ですね。

山内議著 『弓削島荘の歴史』を読んで
平山 忠義 (東京在住)

名前からして「○院」の「荘」の島であつたはず。「中ノ庄」「三ノ庄」等々・・・地名もそれを立証しています。とまれ、プロというものの偉さと恐さを痛感します。我々

好作家の眼と、歴史学者との眼光の違いと云うこと。それにしても、日比、楡田鎌田、土生(波生?)鎌倉時代の地名がそっくり現代に伝えられてあることの有難さ。最近、合併開発、改革(正?)などの名の下に、地名も、どしどし変更されることが多いがそれら一切は、自分たちの先祖の存在を抹消する暴挙であることを、この一書を読むだけでも、痛感させられる。徒な守旧は進歩の障害になるが、何は残し、何は改めてよいのか、そういうことは腰を据えて考究した上でやらねばなりません。つくづくと考えさせられています。

またまた、目からウロコが落ちた話。久しぶりに餌掘りに精を出し、潮の流れに目を移しながら、一息ついてみると、水面に魚影。寸間入らず赤エイの空中ダイブ。魚がハネタなどと言ってしまうと色気もないが、エイ独特の長い尾、滑らかな姿は、空中ダイブが目的ではと思うほどにUFO姿している。巨大マンタがダイブしているTVの映像と無意識のうちにダブらせたのであろうか。一瞬が一瞬以上に長く感じたものだ。その記憶が薄れかけたある日、友人と釣り談義をした。久しぶりに何者かに仕掛けをブチギリにされたが数日後みごと釣り上げたらしい。海面に姿を見せるやいなや突然空中にダイブ。メートル級のエイだったのだ。狙った獲物を必ず物にする友にいまさらながら脱帽だ。(大鯛の時もやはり逃げた話を本物にした) もっとも秋ちかくなると昼夜の釣りの外道としては珍しくはないのだが、彼いわく、餌掘りで浜を歩いてると突然ダイブしたのだと。ン?ここまでは同じではないか! 季節は毎年巡ってくる。移ろう変化は海を通して自分の体でわかると自負しておったのだが、エイの空中ダイブにはマンタ、マイタ



明日への弓削を考える

人の居住地としては世界的に申し分のない瀬戸内海の中でも、これだけ気候の良い、位置も良い、災害の危険も少ない弓削の自然は大阪や東京に住み、中国、朝鮮、南方等の生活経験もあるが、しみじみと上の上だと感じている。

日本は総体的に(地理的・社会的にも)良いところであるが、世の中すべて良いことづくめのものはなく必ず入れ混じっているものである。

天地人②

島田 英好

生活が楽になるために戦後の努力は次第に成功しつつあるが、多少楽になったらもうその調子で続くような気持ちになって、他人のことより自分のこと、足元より目先のことに心を奪われがちなのが懸念する一方の気がする。

島の弱点、特に弓削の弱点は何か。水と広い平坦地の乏しいことである。海は狭い。中央は山でタコ足の足のごとく凸凹に四方に海まで足を伸ばし小平地との流通を妨げている。これをどうするか。

太田と佐島の間は双方から海水に削り取られ海峡になったように思われる。この間を埋めれば弓削一の大広場に回復可能と思える。弓削の今の姿のままでは今後の車時代への対応も産業の振興も無理だろう。車用の橋もできるし、いっそう都合が良いのではあるまいか。

83才・浜都(投稿)



魚島診療所長だった菅井医師は転任先の「かばしま」にて診療のかたわら公民館活動にも参加されている。このほど公民館より第一、第二

号が上辞された。五島列島の枕島も航空写真でみれば瀬戸内の島と似ている。離島に赴任している教師の率直な意見や文芸欄など僻地ならではの一体感が心地よく、楽しみだ。

弓削島の南端、いまの鎌田運動場が牧場だったのをおぼえているだろうか。海岸に面した草原に乳牛があちこち草をはんでいる姿はとてものどかな風景だった。

牧場主だったのが岡野忠守さん由美子さんご夫妻。昭和三八年から約十年間の豆腐製造を中心とした「弓削食品」は長男康平さんも加わって今年三月まで続け

元気です 岡野 忠守さん 岡野 忠守さん

『牛乳と豆乳』

られた。三十年以上を弓削で活躍され二人とも還暦を過ぎたところだ。

この夏、因島市田熊町の生家に転居された。子育てをしながらの三十二年間は働き盛りの全てと云える。結婚前は幼稚園の先生だった由美子さんの苦勞は想像以上だろう。

乳牛は十頭から始めて二五頭くらいまでふやした。「乳搾りは大仕事でしたが広い牧場でかきまわっていた四人の子供たちとの生活は楽しい思い出がたくさんあります」と語る。「朝の早い豆腐づくりも登校前の子供たちがよく手伝ってくれました」とも。

先日、みかん畑に囲まれた山の上のお宅を訪ねた。車椅子の忠守さん、あいかわらずのユーモアで笑いがたえない。日当たりのいい大きな窓からは弓削方面の海が見渡せた。(平山久子)

つくる・呑む・まわる。諸国ドブ록法典(農文協)という本がある。

文字通りあちこちでドブ록を造り呑み楽しんでる人達の秘伝を聞き書きしたものだ。借しくも一昨年だか故人になられた前田俊彦氏の「ドブ록をつくらう」なる本もある。

酒の自家醸造禁止と人間の基本的自由の抑圧という関係は本質をえぐるテーマだぞ。自分で呑む酒は自分で造る簡単理論。諸外国では皆そうしている。呑平山はあった。目玉である図書館をのぞいてみる。六万冊開架可能とされているがまだ整備中。閲覧室も小ぶりだ。館長の見識と行政の本気さで評価されることになるところだ。

利用案内によると図書館の貸し出しは「市民」と「市に勤務地があるもの」に限られ、諸施設の使用料も高い。そんなのなら「芸予」の2字をとってしまえ。

目標一億円の寄付を募っているが、達成率四八%。この数字がどこまで伸びるか楽しみだ。

かなりの高台に在るので老人がぼちぼち歩いていくのはちょっと。中学生が学習の場にするのもちょっと。でも、見晴らしはよく、芸予諸島がとてきれいだ。

因島市立図書館 *みてある記*

因島市・芸予文化センター開館記念行事にアニメ映画会があったので行った。多目的ホールと映写設備の能力を見るのが目的。結局、多目的といえは便利そうに思えるが実はどんな使い方をしても不満が残ることになりがちである。それを予想させるホールで

学校給食センターの起工式が十月九日行われた。給食をテーマに公開セミナーが開かれた。主婦や農業関係者ら約八十名が出席して賑った。

伯方

学校給食センターの起工式が十月九日行われた。給食をテーマに公開セミナーが開かれた。主婦や農業関係者ら約八十名が出席して賑った。

岩城

十月十二日果樹試験場で「レモンとライムの利用法」

瀬戸田

かわらぶき屋根で木をふんだんに使った瀬戸田小学校の新築が起工された。学校統合後は学校施設と地を活用した高齢者介護施設を検討。

尾道

九月定例議会での「子どもの権利条約の精神とほど遠い保護者の労働、生活実態と厚生省の制度改善にどう対処するのか」

あたりはずれ

橋本 健治

出勤前のさなかである。窓の外に、ヒンカチの気配がする。愛くるしい小ツブの目、首を左右にかしげながら今年も帰ってきまじらよと挨拶している様子が目に浮かぶ。忙しい朝の時間がゆっくり流れる。

母が「遅くなるで」とせきたてる。えい、えい、いつもこれだ。

十一月はカレイ、落ちギザミなど。気温の低下をみるといよいよよかき入れどきなこのところとんと海には無沙汰だ。何くれと野暮用ばかり。工場どころではないのに工場に行かねばならぬ。この気持ちはなかなかストレスを生む。

ドアをあけ外に出るとヒンカチが毎年止まっている枝先がゆれている。まだ北国の香りを漂わせよそよそしいのがまた可愛らしいのだ。

ヒンカチやモズが高鳴きする頃になると授業中どこからもなく刈り入れ後の草を焼く匂いが香ってくる。「この匂いが大好きなの」といった先生。野山を見渡すと、そこかしこ畑でせいだす人々。子供ながら島全体が生き物のように思えた。それからというものの、かわりばんこにアケビ、スキ、ハギなどが教室に持ち込まれた。うれしそうにしていた厳しくもやさしく大好きだった先生。

弓削通信

発行責任者
愛媛県越智郡弓削町
土生 318-2 平山和昭
電話: 0897-77-3072

今年も色々ありました。 毎度、年末になると来し方 ふり返るはいわば惰性。

現在進行形事態が良いほうに展開する気遣いが無いので一区切りつけたがる。人のする事に、悔やみや反省はつきものですが、それらから学ばなければ、

その場かぎりのお悔みにしかならぬのも事実でしょう。元、宮城教育大学学長の林 竹二は、学んだことの唯一の証は何かが変わるかとだと言っています。

なぜという子に育てたい

世の中どうかしているのではないかと思えることが 沢山あった年でした。

明らかに一人の生徒が同校の生徒に殺されたのに、犯人のいない山形県のマツト死事件。

やさしく思いやりのある子に育ち、それゆえに自らの命を絶ってしまったという愛知県の中学生の自殺。

しんこ細工のアメのような我が政府。惚けたようにアメ屋の手並みを眺めているだけの貧乏な中流人。

何故このようなことになるのでしょうか。弓削小学校PTAが発行している「あゆみ」という

さる十一月二七日、弓削小学校で、福山のアマチュア劇団「マンボウ」による「サル山は今」という劇がPTA主催で上演されました。

物語はサル山の老ボス、

次期ボス、事故死した赤子のミイラを手放さない母ザル、孤児になった白ベという子ザル、ネルベとアソベという子ザルのうち、白ベがネルベとアソベに面白半分にいじめられ、中傷と誤解の果て、いつもかばって

解の果て、いつもかばってくれている母ザルや次期ボスザルにも嫌われたと思いつまされ、優しいボスの突然の死を「おまえのせいだ」と言われ、つい、

「優しい、人の痛みわかる子に育ててほしい」との願いを体現しているように見受けられます。さき一人の子を除いてと書きました。この生徒(高田君)はこう書いています。

「何でしろはボスさるをころしてないのにじさつをしたのかと思った」

「どう思いますか?」

「コトバ」は使えます。然し「なぜか?」という思考を省いた言葉は思想にはならず、思想なければ言葉は木の葉です。

この公演があった日、愛知県の中学生は自殺しました。弓削の親子はあの二

に違う違うと言いつながら自殺をするというもの。

劇団主宰の浅野氏によれば十数年まえ子供たちが、いとも簡単に自死を選ぶの

に心を痛めたのだそうです。ラストは死んだ子をかかえた新しいボスが「なぜ誰も止めなかった!」と観客に問いかけるくだりがあった

て、実は「やめて!」と叫ぶ子もいるのだそうです。それはそれで別の展開が用意されているのですが、観劇2回目は私は弓削でそれが見られるのではないかと期待していたのですが、

「スを聞いてどんな話し合いをしたでしょうか。いじめについてはマスコミも政府もしばらくは騒ぐでしょう。いじめに加わったことも達を犯罪者として処断しろと声高に叫ぶ声も聞かれます。だが、犯罪的行為を罪の意識もなく行なってきた(いる)多くの子供たちを育てたものたちは誰からどんな処断を受ける覚悟をしているのでしょうか。

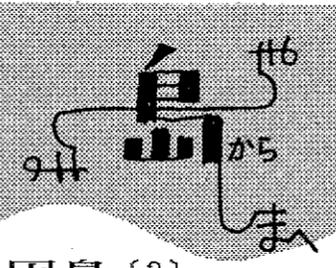
法の精神を意図的にゆがめ運用した判決などを繰り返して、いま網の目を狭めたところで実効あるわけはないでしょう。

青瓜大臣やその子分の口車に乗ってはいけません。

まず手始めにできること

その答えの一つを高田君が教えてくれています。

鐘や太鼓をならす人。その後ついて走る人。針を持つのが好きな人、包丁にぎれば島一番(?)。ニッコリ笑顔の決まる人。段取り上手なあのお方。こんな素敵な嫁を持つ亭主の顔が見てみたい! 少しオーバーですか? だって「この劇」のババのパワーってすごいんだもの。十人寄れば十人それだけの千恵と腕がピカッと光る。



因島(3)

この劇のパパはおいける。

アイドル みつけた!

青木 喜代子

昔はそこらじゅうで見られた光景がいつの間にか無くなり、わざわざセットしないといけないのも少し寂しい気がしたり、いや待てよ、そんな今だからこそこの機会が要るんだ! その自分にかかせたりして。とにかく遊びや環境、文化と話題はつきない。いろんな人との出会いでいろんな見方、考え方があり、目のうるこが一枚おち、また一枚。いったい何枚のうるこがついたりはがれたたりするのか。

でもいい。みんなではがし合いをし、アンテナを磨きめいているじゃれたパサンになりた。

おやこの劇場に入るチャンスをおくれた子供に目いっぱい感謝しつつ「この劇」のパバの夢はドーンと大きく広がっていく。(おわり)



12月4日・因島椋浦町の絵本の館(旧小学校)で因島おやこ劇場の父母、子供たちが集まってもちつき、工作、危ない遊びを楽しんだ。小学校だが美しい山間にあって命の洗濯が出来る。こどもが

双眼鏡

